

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

オジュウチョウサン(牡8、父ステイゴー)の出現で、競馬ファンの目がこれまで以上に障害戦に向いていることが、筆者は嬉しくてしかたがない。18年も欧州におけるレース別馬券売り上げベスト10のうち9レースまでが障害戦であつたように、欧州では平地競馬より障害競馬の方がファンの人気が高く、筆者にとっても、欧洲の障害戦をフォローすることは冬の季節における最大の楽しみとなっている。

その障害シーズンのハイライトともいえべき、チャルトナム・フェスティヴァル(3月12～15日)の開催が目前に迫っている。各路線のトップホースが一堂に会するフェスティヴァル開催だが、中でも今年最大のスターと目されているアルティオール(騎9、父ハイチャバラル)が、今月のこのコラムの主役だ。

愛国産馬で、3歳6月にコフスの障害馬用セールに上場され、6万ユーロ(当時のレートで約780万円)で購買されて、英國の名門ニッキー・ヘンダーソン厩舎に入厩したアルティオールは、13／14年シーズンの終盤にマーケットレイズンのナショナルハンツフラット(芝16F 14.8Y)でデビュー。緒戦勝ちを飾つたものの、14／15年シーズンはユーバリーとパンチエスターのナンショナルハンツフラットに出ていい

オジュウチョウサン(牡8、父ステイゴー)

ずれも敗戦を喫している。

障害を跳び始めたのは15／16年シ

ズンからで、そこからアルティオールの快

進撃が始まった。このシーズンはハードル

を5戦し、7馬身差で制したチャルトナム

フェスティヴァルのG1ジュプリームノーヴ

イスハーダル(芝16F 8Y)を含む5連勝。

16／17年シーズンからスティーピルチ

エイスに転向し、このシーズンは6戦して、

6馬身差で制したチャルトナム・フェスティ

ヴァルのG1アーカルチャレンジトロフィー

(芝15F 14.9Y)を含む6連勝と、騎虎

の勢いで連勝街道を築進したのである。

そんなアルティオールに試練が訪れた

のが、17／18年シーズンがまさに本格化

しようとしていた時期だった。のど鳴りが

顕在化し、手術を受けることになつたのだ。

このシーズンの始動は18年の2月に流れ

こんだが、復帰戦となつたユーバリーの

G2ゲームスピリットチャイース(芝16F 9.9Y)を4馬身差で制すると、チャルトナム・

フェスティヴァルを舞台としたステイーブル

チャイース2マイル路線の最高峰G1タワー

ンマザーチャンピオンチャイース(芝15F 19.9Y)を7馬身差で快勝し、遂にこの路線

の頂点に立つた。更にサンダウンのG1セレブレーションチャイース(15F 11.9Y)も

レブレーショングランプリを舞台としたステイーブル

チャイース2マイル路線の最高峰G1タワー

で3勝で乗り切つている。

こうして迎えた今季も、緒戦から3連

勝で1月19日にアスコットで行われたG1

クラレンスハウスチャイース(芝16F 16.7

Y)を制し、入障以来継続している連勝

を17に伸ばすとともに、通算8度目のG

1制覇を果たしたのだ。

次走は、自身の連覇がかかる3月13日のG1クライーンマザーチャンピオンチャイースで、ブックメーカー各社はアルティオールに1.36倍～1.44倍というオッズを掲げ、圧倒的1番人気に支持している。

昨年のG1クライーンマザーチャンピオンチャイース2着馬で、2月2日にレバーブラウンで行われたG1ダブリンチャイース(芝17F)を6馬身差で制したミン(騎8、父ウオークインザパーク)や、昨年のG1アーチカルチャレンジトロフィーを14馬身差で制したラットパッド(騎7、父クラーカドワール)といったタレント多くの路線にはいるのだが、相手がアルティオールではどうにも分が悪いというのが、大方の見るとところである。

チャルトナムでアルティオールが果たしてどんな勝ち方を見せるか。そして、無敗の連勝記録がどこまで伸びるのか。日本の競馬ファンの皆さまもぜひご注目いただきたい。